



5月1日、コンサートの稽古を終えた私は、東京辰巳国際水泳場へと急いだ。シンクロナイズドスイミングの国際試合決勝への応援だ。

実は、井村雅代コーチと私には共通の友人がいて、コーチが私の演奏会にいらっしゃり、「あの目ヂカラを選手に学ばせる」と競技の参考にされた、という光栄な笑い話がある。

席に着くと、隣はその井村コーチのご主人。プールサイドの奥さまを終始熱い視線で見守り、真剣な声援を送るお姿に胸を打たれた。当時、お二人は同じ中学校に赴任された体育の教師として知り合われ、ご結婚なさったそうだ。ともにその職場で風紀係をされたとうかがい、さぞや厳しい生活指導だったろうと、思わず笑みがこぼれた。

「シンクロは1日8時間水中練習、4時間は陸上練習、

スポーツに感動する真の理由



好きだから続くなどという甘いものではありませんよ」とご主人が断言なさるほど、その練習は厳しい。たとえ国際試合に挑める水準に達した選手でさえ、そのチャンスを辞退することもあるという過酷な訓練の連続なのだそう。

井村コーチは28年間、14度にわたる世界大会でのメダル獲得という結果を出してこられた前人未達の偉人であり傑物だ。計りしれない^{かんなん}艱難辛苦を乗り越えて、どんなときも不屈の精神で選手を導き、選手もまたそれに応えた事実に尊敬以上の畏怖を感じる。

コーチ、選手ともに人間の

限界に挑戦し、高みへと努力する姿こそ、私たちに限りない感動や力、勇気を与えてくれる。

華奢な一人の女性コーチの情熱と意志が選手を突き動かし、世界を揺るがす歴史的結果を生み出す。彼らの日々の積み重ねこそが人類の進歩発展をもたらす。人間とは何と素晴らしいのだろう。水しぶきの向こうに輝く夢と誇りが見えた。

(さとう・しのぶ=声楽家)
—毎月第3金曜日掲載

